

# いばきた

## デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA  
DESIGN PROJECT  
REPORT

05

2020 / 1



お問い合わせ

茨木市 都市整備部 北部整備推進課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13

電話：072 (620) 1609

ファックス：072 (620) 1730

メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp



次なる  
茨木へ。

茨木高原カントリー倶楽部を目指して北上する道中から、泉原の棚田越しに広がる市街地の景色を一望することができます。

## 茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができる「仕組み」をデザインしていきます。

## 課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。

### プロジェクトチーム

大学、専門識者、クリエイターをはじめ、地元地域の方々や北部地域で活動する団体と連携を深め、協働の体制をつくる

北部地域と密接につながり

フィールドワーク、取材、編集などの活動を行う

活動を通じてプロジェクトの「仲間」をつくっていく



課題解決に向けて  
みんなで意見やアイデアを出し合える「場」をつくる

- 地域課題の「見える化」を行い、みんなで共有する
- 歴史、文化をはじめ、自然環境、人々の暮らしなど地域資源や魅力を再発掘していく
- 北部地域の未来図を一緒につくっていく

過程と成果を  
情報発信 <> 情報共有

北部地域で暮らしているの方々

市内外で活動しているの方々



地元の方々が実践する地域活動と一緒に体験することで、課題解決への糸口を見出していく。

大阪大学の学生による千提寺フィールドワークでは、地元の方々が主催する魅力発信イベント「千提寺里巡り」に参加し、北部地域の課題解決に向けた情報共有を行いました。

「いばきたデザインプロジェクト」では、地域資源や魅力を掘り起こし、再編集を試みることによって課題解決への道筋を探っていきます。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域とのチームは、千提寺地区の地元の方々が主催する人気イベント「千提寺里巡り」に参加し、市街地から来られた方々と一緒にフィールドワークを行いました。キリシタン自然歩道のウォーキングをはじめ、キリシタン遺物史料館、新名神高速道路・千提寺PAの様子や大阪市内までを眺望できる展望台などをツアー。昼食には、お母さんたちの手作り料理による、新米と季節の新鮮食材を使った、とても贅沢な「おぼんざいバイキング」と美味しい焼き芋をいただきました。その後は、地元の方々へのヒアリング。地域の成り立ちや魅力、地域活動や課題点について、さまざまなお話を伺うことができました。この貴重な体験を活かし、今後も、より地域に密着し、交流を深めていながら、プロジェクトを進めていきたいと考えています。

ウォーキングの後は、絶品の「おぼんざいバイキング」と「焼き芋」を堪能しました。



森林ボランティア団体の活動拠点「茨木市里山センター」の課題解決と魅力づくりに取り組んでいく。

北部地域に広がる大自然、美しい山々と里山の風景。平成19年に設立された里山センターは、茨木の貴重な資源である豊かな自然環境の整備・保全活動を行う森林ボランティア団体の拠点として機能しています。令和元年度の「いばきたデザインプロジェクト」では、農林業従事者の高齢化や若年層の流出による担い手不足など、幾多の課題解決に向けて、里山センターと一緒に、さまざまなアプローチを展開していきます。



「車作里山倶楽部」の活動取材させていただきました。

令和5年に完成を迎える安威川ダム周辺地域で活動を行う「車作里山倶楽部」。ダムができることによる「地域の賑わい創出と環境保全」の両面の重要性を見据え、地元住民をはじめ、自治会、安威川上流漁業協同組合が一体となって、未来への課題解決に取り組んでいます。この日は、安威川の支流である下音羽川にて、台風被害による倒木の処理作業を行うなか、代表代行の榎山信博さんに現場を案内いただき、発足の経緯や活動内容、今後の展望などをお伺いすることができました。いばきたデザインプロジェクトでは「安威川ダムをハブ拠点とする北部地域の活性化」を視野に入れ、みなさんと一緒に考え、アイデアや意見を出し合えるフィールドを創出していきたいと考えています。



見山の郷 × 摂南大学経営学部

平成30年度よりスタートした「いばきたデザインプロジェクト」では、見山の郷の課題解決、魅力創出を目指し、摂南大学経営学部の学生たちとともに、年間を通じたイベントの開催をはじめ、ブランディングやマネジメントの提案を継続的に進めています。

